

テセントリク[®]+カルボプラチン+ペメトレキセド

【導入療法】1~4コース

◆ 点滴に使用する薬と点滴時間

- 初回のみ：2時間40分
- 2コース目以降：2時間10分

使用する薬	外観	点滴時間
吐き気止め プロイメンド [®] 、デカドロン [®] 、 グラニセトロン		30分
テセントリク [®] 1200 mg/body		初回：60分 2回目以降：30分
ペメトレキセド 500 mg/m ²		10分
カルボプラチン AUC 6		1時間

◆ スケジュール

21日間を1コースとして、治療を繰り返します。

【維持療法（導入療法終了後）】

◆ 点滴に使用する薬と点滴時間

- 点滴時間：55分

使用する薬	外観	点滴時間
吐き気止め デカドロン®		15分
テセントリク® 1200 mg/body		30分
ペメトレキセド 500 mg/m ²		10分



◆ スケジュール

21日間を1コースとして、治療を繰り返します。

- ペメトレキセドによる副作用を軽減するために、9週間に1回 メチコバル®（ビタミンB₁₂）を筋注します。
- 薬の量は、副作用の程度などにより変更されることがあります。
- 点滴時間はあくまで目安であり、時間が前後することがあります。

◆ 内服薬の飲み方

- 症状があってもなくても、**必ずお飲みください。**

お薬の名前	用法用量、使用上の注意
<p>パンビタン®末</p> 	<p>1回1包 1日1回 朝食後 毎日</p>
	<ul style="list-style-type: none">• ペメトレキセドによる副作用を軽減するために使用します。
<p>デカドロン®錠 4mg</p> 	<p>1回 ____ 錠 1日 ____ 回 ____ 食後 点滴の前日と翌日</p>
	<ul style="list-style-type: none">• ペメトレキセドの皮疹や吐き気を予防するために使用します。

◆ 主な副作用

白血球減少

白血球が減少すると免疫力が低下し、風邪などの感染症にかかりやすくなります。

治療開始1～2週間後に白血球の値が最も低くなり、その後1～2週間かけて回復します。

うがい・手洗いなどの感染予防を心がけましょう。

37.5度を超える発熱時、医師からあらかじめ処方された薬がない方は、病院へご連絡ください。

赤血球減少

貧血になり、めまい、だるさ、動悸、息切れなどの症状があらわれます。治療開始2～4週間頃に低くなります。

必要に応じて、薬で治療したり輸血することがあります。

血小板減少

血液が固まりにくくなり、歯茎からの出血や鼻血が出やすくなります。治療開始1～2週間後に血小板の値が最も低くなり、その後1～2週間かけて回復します。

転倒やケガに注意してください。

必要に応じて、輸血することがあります。

【血液検査について】

副作用の確認のために、定期的な血液検査を行います。

◆ 点滴中

下記の赤字の症状があるときは、すぐに医療スタッフへお声かけください。

過敏反応（アレルギー）

寒気、吐き気、頭痛、めまい、発疹、息苦しい

治療開始1～2回目が起きやすいですが、治療を繰り返していても現れることがあります。

血管外漏出

点滴が漏れている、針を刺したところが痛い、熱っぽい、赤く腫れている、違和感がある

※血管痛・静脈炎

薬の種類によっては、点滴が漏れていなくても血管痛を起こすことがあります。また点滴終了後、血管のつっぱり感、硬くなる、色素沈着などの静脈炎が起こるがあります。

点滴前にホットパックで腕を温めるなどの対応を行うことがあります。治療のたびに起こる血管痛が辛い場合や静脈炎がひどい場合は、主治医や医療スタッフにご相談ください。

◆ 点滴終了後～1週間頃

吐き気・嘔吐・食欲不振

必要に合わせて、吐き気止めでしっかりと予防を行っています。
それでも症状がある場合は、吐き気止めを追加で使うことがあります。
水分が摂れないほど吐き気・嘔吐がひどい場合は、ご連絡ください。

便秘

お腹の動きが悪くなり、便が固くなったりお腹がはることがあります。
食事や水分摂取、適度な運動でも改善しない場合、下剤を使用します。

発疹

皮膚が赤くなる、かゆみが出ることがあります。
刺激の少ない肌着を着用しましょう。塗り薬やかゆみ止めの内服薬を使用することがあります。
治療開始後数日以内に全身に発疹やかゆみが出る、目の粘膜や唇がただれる、発熱を伴う場合などはすぐに病院へ連絡してください。

倦怠感（だるさ）

疲れやすい、気力がない、体が重いなどの症状で、日常生活に支障が出る場合は、診察時に主治医へご相談ください。

◆ 1～2週間頃

下痢

普段より1日4回以上多く排便がある、または1回でも水のような便があるときは、**下痢止めを使用**することがあります。

強い腹痛や発熱を伴う場合、医師から処方された下痢止めで改善しない場合は、ご連絡ください。

口内炎

口の中がヒリヒリする、しみる、痛くなることがあります。

歯みがきやうがいで口の中を清潔に保ち、**乾燥を防ぐことが大切**です。また**うがい薬や塗り薬**を使用することがあります。

がまんできない、水分もとれないほどの口の中の痛みがある場合は、病院へご連絡ください。

◆ 2～3週間頃

脱毛

薬の種類によって抜けやすさは異なりますが、1～2か月後にはかなり目立つようになります。

髪の毛以外（まゆ毛、まつ毛など）全身の体毛も同様に抜けます。治療が終了すると、少しずつですが生えてきます。

◆ 蓄積性の副作用

末梢神経障害（手や足の感覚が鈍くなる、しびれ）

治療を長く続けると少しずつ悪化し、しびれや痛みが持続するようになります。治療を終えても回復に時間がかかります。

手先をうまく使えずボタンがかけづらい、転倒しやすいなど、日常生活に支障が出る前に、診察時に医師に相談してください。

色素沈着

皮膚に日焼けのようなしみができる、爪が黒ずむ

味覚障害

味を感じにくくなる、塩味を強く感じる、金属味がする、まずく感じるなど味覚に異常が出る場合があります。

● その他の副作用

非常にまれな副作用ですが、万が一赤字の症状がある場合は、すぐに病院へご連絡ください。

間質性肺炎

たんが絡まない乾いた咳、息苦しい、発熱

腎機能障害

定期的な血液検査を行います。

尿量の減少、全身のむくみ

テセントリク®を投与される方へ

免疫異常により全身に様々な症状が起こる可能性があります。
以下は、主な症状と可能性のある副作用です。
症状がある場合は病院へご連絡ください。

発現部位が限られる症状

嘔吐、精神状態の変化
→**脳炎**

かすみ目、まぶしく感じる
視力低下
→**ぶどう膜炎**

乾いた咳、息苦しさ
息切れ
→**間質性肺炎**

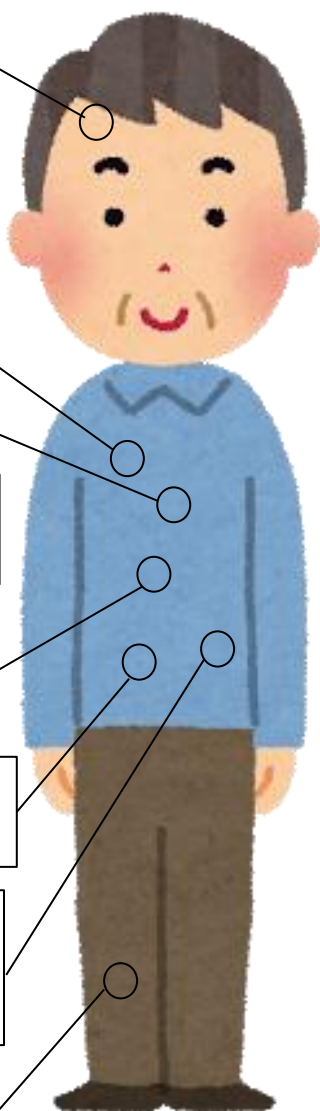
めまい、動悸、意識の低下
→**心臓障害**

皮膚や白目が黄色くなる
→**肝臓障害**

ひどい下痢、血便、黒い便
→**大腸炎**

尿量が減る、血尿が出る
むくむ
→**腎臓障害**

足のむくみ、痛み、胸痛
→**静脈血栓塞栓症**



全身に出る可能性のある症状

疲れやすい、体重の増減
いろいろや物忘れしやすい
体がだるい
→**甲状腺、下垂体、副腎などの
内分泌機能異常**

発疹、水ぶくれ、ひどい口内炎
→**重症な皮膚障害**

息苦しさ、手足に力が入らない
ものが二重に見える、筋肉痛
→**重症筋無力症**

口が乾く、水をよく飲む
だるい
→**1型糖尿病**

皮膚のあざ、口や鼻から
出血しやすい
→**血小板減少症**

運動・感覚まひ
手足のしびれや痛み
→**神経障害**

甲状腺・下垂体・副腎機能障害

甲状腺や下垂体、副腎はホルモンを分泌して体内の機能を保つ組織です。ホルモン値の変動にあわせて、お薬を使用することがあります。

間質性肺炎

たんが絡まない乾いた咳、息苦しい、発熱などが急に現れる、または以前から症状があり、その症状が急に悪くなった場合は病院へご連絡ください。レントゲンで定期的に検査します。

皮疹・皮膚炎、白斑

皮疹がでたり、皮膚が赤くなるまたは白くなることがあります。症状に応じて飲み薬やぬり薬を使います。

全身への皮疹やかゆみが強い時、またはひどい口内炎やまぶた・目の充血、粘膜のただれ、発熱をとまなう場合は病院へご連絡ください。

下痢・大腸炎

軟便、もしくは明らかな排便回数の増加がみられることがあります。血便や黒色便、腹痛を伴う場合は、下痢止めを使用せず病院へご連絡ください。

肝機能障害

肝臓の働きが低下することがあるため、定期的に血液検査を行い、肝臓の働きを確認します。お酒やサプリメント、健康食品でも肝臓の働きが低下することもあります。これらを服用中の方は、主治医に申し出て下さい。白目や皮膚が黄色くなる（黄疸）、ひどいだるさがある場合は、病院へご連絡ください。

腎機能障害

腎臓がうまく働かなくなることがあります。腎臓の働きが悪くなるとお薬が体内から抜けにくくなり、副作用が強くなる場合があります。尿量の減少、全身のむくみがある場合は、病院へご連絡ください。

重症筋無力症・筋炎

体に力が入らない、まぶたが下がる、筋肉が痛いなどある場合は、病院へご連絡ください。

脳炎・髄膜炎

頭痛、吐き気、意識が薄れる、首を前に曲げにくい場合は、病院へご連絡ください。

糖尿病・糖尿病性ケトアシドーシス

からだのだるい、のどの渇き、尿量が増える場合は、病院へご連絡ください。定期的な尿検査を行いますが、ご自宅でも尿糖検査での自己チェックをお願いします。

免疫チェックポイント阻害薬における高血糖の早期発見のために

免疫チェックポイント阻害薬は、免疫のしくみ（免疫機能）を利用した治療です。がん細胞を攻撃する作用がある一方で、様々な副作用を認めることがあります。頻度は稀ですが特に、急激に発症する**劇症1型糖尿病**は命に関わる副作用であるため、十分な注意が必要になります。

劇症1型糖尿病の初期症状：上気道炎症状（発熱、咽頭痛など風邪のような症状）
全身倦怠感（しんどい、だるい）
消化器症状（上腹部痛（おなかのいたみ）
吐き気（むかむかする）、嘔吐など）

高血糖の症状：口渇、多飲、多尿、体重減少、全身倦怠感、意識障害

血糖値が高くなっていないかを簡便に知る方法として**尿糖をチェックする方法**があります。尿糖チェックは、手軽に現在の血糖の状態を間接的に知ることができ、糖尿病の発見に大変有用です。そのため、試験紙を購入頂き、自宅で検査していただくことをお勧めしています。

近隣のドラッグストアや薬局、もしくはインターネットで「**新ウリエース®Ga**」を購入してください。30枚入りで990円です。

検査するタイミング

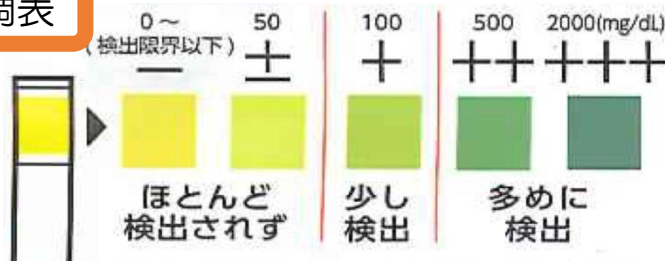
治療開始前（ベースライン）

- 朝起きて、最初の尿

治療開始後 2～3日毎

- 朝起きて、最初の尿
- 倦怠感など通常と違うと感じたとき（随時）

色調表



緑色に変化したら、**要相談!!!!**



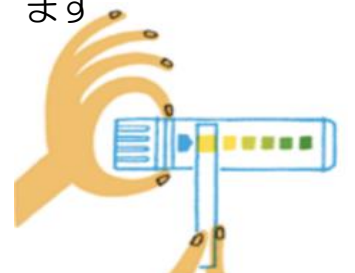
(1) 約1秒間、試験紙に尿をかけます



(2) 30秒後に、色調表と比較して、判定します



(3) 判定後は、そのままトイレに捨てられます



◆ 緊急時の連絡方法

困ったことがあったときは、下記にご連絡ください。

気持ち悪くて水分も摂れない
下痢が止まらない
37.5℃以上の発熱が続いている
薬の使用方法がわからない

など



診察券を用意する

代表：044-977-8111 に電話をかける

平日：8:30-17:00
土曜日：8:30-12:30

腫瘍センター
ナースステーション

夜間帯・休診日
など左記以外の時間

各診療科の当直医

◆ 予約外受診の方法

病院本館正面玄関に入って右手の
「②再診受付」または「予約外受付機」で手続きした
後、各診療科の外来でお待ちください。

※受付時間：平日8:30-11:30 土曜日8:30-11:00

- 生活上の注意については、別冊のパンフレットもご参照ください。
- ご不明な点がある場合は、遠慮なく医療スタッフにお尋ねください。

薬剤師